

2024
4-6月期



京都企業の
BSI値

Business survey index

国内景気は観光需要で堅調も、自社業況は同期3年ぶり下降
コスト高が継続、価格高騰による買い控えも

実績

国内景気

インバウンド増による消費拡大で観光関連業種がけん引し、5期連続で上昇

自社業況

コスト上昇分の価格転嫁は進むも売上が伸びず、4～6月期としては3年ぶりに下降

予想

国内景気

7～9月期は小幅な上昇が続き、10～12月期には全業種で上昇し、上昇傾向が強まる

自社業況

7～9月期には中小企業を中心に下降するも、10～12月期には上昇に転じる

規模別の業況

国内景気は大企業で着実に上昇し、中小企業ではほぼ横ばいに。自社業況は大企業で横ばい、中小企業で下降が続く
今後、大企業は堅調に推移する一方、中小企業は7～9月期に下降し、10～12月期に上昇に転じる

1 概要

今期の国内景気BSI値は2.5(前期実績3.4)と幾分上昇し、5期連続での上昇となった。インバウンドをはじめとした観光客増加による消費拡大が期待され、小売業、サービス業、運輸・倉庫業等、観光関連の業種で大幅に上昇した。

今後の予想については、7～9月期は2.0と、小幅な上昇が続き、続く10～12月期は全ての業種で上昇し、9.8と上昇傾向が強まる見込み。

国内景気 BSI 値

(前期実績 3.4)

2.5



自社業況 (総合判断) の推移 (BSI 値)



1.7

自社業況 BSI 値

(前期実績▲6.5)

今期の自社業況BSI値は▲1.7(前期実績▲6.5)と若干の下降となった。歴史的な円安相場等を背景に原材(燃)料価格の高止まりが続き、価格転嫁は進むも物価高による買い控えで売上が伸びず、減益傾向となった。一方、インバウンドの増加等、観光需要は堅調で、運輸・倉庫業やサービス業等、観光関連の業種では大幅に上昇した。

今後の予想については、7～9月期は中小企業を中心に下降傾向で推移するものの、10～12月期には大企業、中小企業ともに上昇する見込み。

(注)4～6月期のBSI値は、1～3月期の景況感を基準に強気なら「プラス」、弱気なら「マイナス(▲)」で表している。算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引き、2分の1を乗算。

2 BSI 値の総括表

| | | 実績 | | 予想 | |
|-----------|-------------------|------------|------------|------------|--------------|
| | | 2024年1～3月期 | 2024年4～6月期 | 2024年7～9月期 | 2024年10～12月期 |
| 京都企業の経営動向 | 国内景気動向 | 3.4 | 2.5 | 2.0 | 9.8 |
| | 自社業況(総合判断) | ▲6.5 | ▲1.7 | ▲2.4 | 11.7 |
| | 1. 生産・売上高、工事施工高 | ▲8.4 | ▲2.3 | ▲1.7 | 11.3 |
| | 2. 製・商品・サービス・請負価格 | 8.9 | 13.1 | 12.0 | 12.0 |
| | 3. 経常利益 | ▲10.8 | ▲7.6 | ▲6.0 | 6.3 |
| | 4. 所定外労働時間 | ▲3.0 | ▲2.2 | ▲3.8 | 7.2 |
| | 5. 製・商品在庫 | 8.8 | 8.5 | 8.5 | 4.8 |
| 6. 資金繰り | ▲3.4 | 0.0 | ▲3.3 | 2.1 | |

(注) BSI値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

3 当面の経営上の問題点

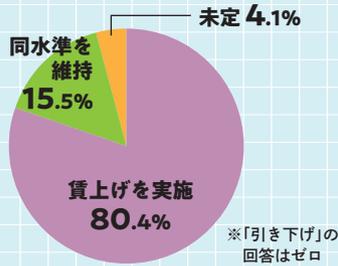


第1位は「原材(燃)料高」(57.1%)、第2位は「求人難」(42.9%)、第3位は「受注・売上不振」(36.6%)、第4位は「人件費負担増大」(32.6%)、第5位は「技能労働者不足」(15.8%)であった。

4 附帯調査 —ピックアップポイント—

賃金動向について ▶ 賃上げを実施(予定含む)する企業は約8割
現在の賃金水準は半数以上の企業にとって負担に

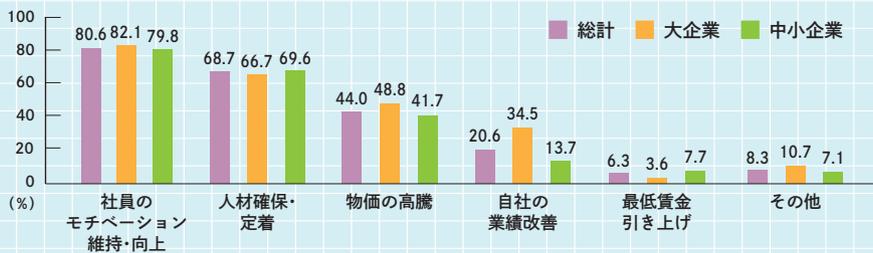
1 今年度の賃金について



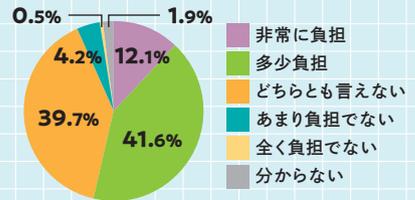
2 賃上げの内容について



3 賃上げを行う要因・目的

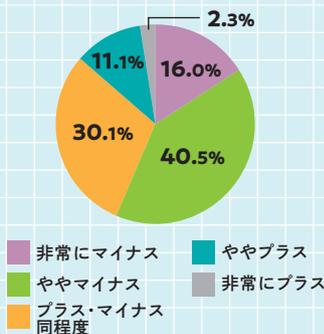


4 現在の賃金水準に関する負担感について

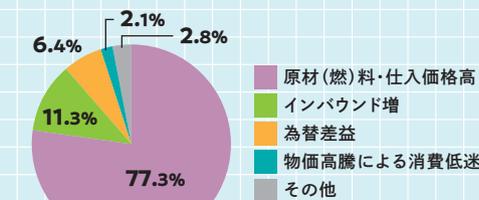


為替動向について ▶ 半数以上の企業が円安相場によるマイナス影響を受けている
自社にとっての適正相場は1ドル=130円程度

1 現在の為替相場が経営に与える影響



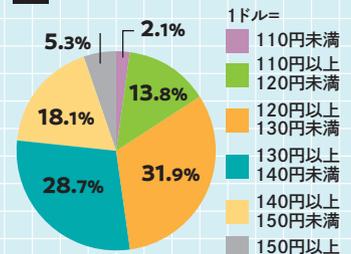
2 受けている影響の具体的内容



主な記述内容(抜粋)

- ・輸入原材料の値上げが尋常ではない。(化学・ゴム)
- ・原材料費が高く、利益を圧迫している。(建設業)
- ・円安に伴うインバウンド需要の増大。(小売業)
- ・海外ロイヤリティ等外貨受取による為替差益。(化学・ゴム)
- ・消費の低迷による売上数量の低下。(運輸・倉庫業)

3 自社にとっての適正相場



| | 平均値 | 中央値 | 最頻値 |
|------|-------|-------|-------|
| 総計 | 127.8 | 130.0 | 130.0 |
| 大企業 | 128.4 | 130.0 | 130.0 |
| 中小企業 | 127.7 | 128.8 | 120.0 |

京都企業のBSI値：5月中旬から6月上旬にかけて同調査を実施し、506社中322社から回答を得た(対象は、京都府内に本社、本店等を持つ企業)。

【お問い合わせ】 中小企業支援部 ☎075-341-9780 調査結果概要は本所ホームページからダウンロードできます。 京都商工会議所 BSI値 検索